

## 岡山県国際解会教育研究大会会長あいさつ

岡山県国際理解教育研究会 会長 神田 進

平成19年度、第15回岡山県国際理解教育研究大会が岡山市立御南小学校で開催されました。御南小学校ではイメージ教育と英語活動の授業公開をしていただきました。2,3年生の音楽と体育のイメージ教育に関する授業公開と、5,6年生の英語活動の授業公開をしていただきました。公開授業をしてくださる先生やその補助等をしてくださる先生の姿が見られ、学校全体で今回の研究大会の授業公開をしてくださっていることが分かりました。先生方のやる気が伝わってきて、すばらしい実践をされている公開でした。斉藤校長をはじめ全教職員の教育活動が一つになって取り組まれていることが分かりました。どの授業も活動的で他の子供たちとコミュニケーションを取りながら、互いに共存していこうとする姿が随所に見られ、研究の成果が上がっていることを感じ取ることができました。ありがとうございました。

今大会は、帝京大学教授小池寛治先生、岡山県町村教育長会会長武泰稔先生、岡山市総合教育センター教育研究・研修室長青山順子先生、全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会会長生野康一先生をお迎えしての研究大会となりました。

全海研の生野会長には「国際理解教育における今日的課題」という演題でご講話をいただきました。また、小池寛治帝京大学教授には「国際理解教育とは？海外勤務を通じた私の体験」という演題でご講話をいただきました。斉藤校長がクアラルンプール派遣時にお子様を担当したという経緯もありました。小池先生のお話の中で、特に印象に残っていることは、「島国日本は、多神教で冬夏の季節が明確に分かれ、秋の裕福な実りの中に、時として大災難が襲い飢餓に見舞われるという風土であることから、世界の中で日本は特異な国であるという認識を持つ。国際理解教育はまず日本の歴史を知ることが重要だ。我々も寛容さも備えなければならない。幼児期の英語取得は、獲得は早いですが、日本語が母語になれば忘れてしまうこともある。英語ができる環境を作ることが大切だ。」などのことでした。グローバル化が進む中での日本国内の改革は必修であることも説かれ、私にとって良い勉強をさせていただきました。

岡山県国際理解教育研究大会は、授業公開を伴いながら、岡山県内の津山地区、岡山西地区、岡山東地区、倉敷地区の県内4地区を順次開会地域を変えながら、岡山県内の国際理解教育の充実と広がりをねらって開催しています。

国際理解教育は、華やかな授業公開にも思えるのですが、実はそうではありません。国際理解教育を進めるためのテキストや教科書がありません。教師の思いとやる気と工夫によって授業を成立させていきます。グローバル社会が進む中で、国際感覚を育てなければなりません。経済状況や外国人の流入による社会状況の中で、共存社会を目指す国際理解教育は重要です。

また、国際理解教育は、特別な教育でなく、身近な社会生活における教育です。人権、他者理解、多文化理解などと内容を分科化しながら研究を進めていますが、どれも子供の心の教育を抜きにして考えられません。そして、国際理解教育は、日々の教育活動において、学校教育全体を通して行われなければなりません。英語活動においても英語が流暢に話せることを目的としていません。あくまでも国際理解教育です。

今後も、我々の研究活動をより広め、子供の教育に寄与するよう努力し続けることが重要です。会員皆様の研究大会でのご協力に感謝申し上げますとともに、次年度への取り組みもよろしくお願い申し上げます。

